



連載「呼吸器画像を4次元的に理解する」の開始にあたって

断層映像研究会雑誌
編集長 本田 憲業
埼玉医科大学総合医療センター放射線科

会員の皆様に連載の開始をご報告できることをうれしく思っています。

画像診断機器の発達は投影像から断層像への変化と実質的な画像解像力を大きく向上させてきました。3次元画像も日常のものとして使用されています。画像診断の進歩を実感する状況です。しかし、形態学的解析が多くの分野で蓄積された結果、あるいは、腫瘍に対する新しい分子標的薬の開発に伴い、形態診断の詳細化のみでは到達しえない限界も多く、多くの会員が感じておられると思います。核医学が従来からそうであった様に、CT、MRIも画素値を解析、評価して画像診断に新しい価値を加えようとする研究が次第に増えています。

このような環境では、画像の数理的扱い、その根底にあるモデル化、さらに時間軸を入れた4次元解析の重要性は一層増加すると思います。今回の連載は全9回の予定でこのテーマを扱います。著者の北岡先生は呼吸器内科医の経歴をもとに、もっぱら呼吸器の4次元モデリングを追求されている研究者です。断層映像を基礎とする本研究会の会員にとって、断層映像の将来発展を構想する貴重な資料となることを願って、連載をお願いしました。将来に与える影響を鑑み、また、本研究会の発展に寄与すると考え、この連載は会員以外にもひろく公開することといたしました。

会員諸氏のご意見、コメントをお寄せ下さい。